

1 学校教育目標

○つよい子 ○考える子 ○やさしい子 ○はたらく子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって「楽しいと感ずることが出来る学校」(わかる・できる・うれしい・つながる) ・保護者や地域にとって「信頼できる学校」(安全・安心・健全) ・教職員にとって「はたらきがいのある学校」(切磋琢磨・資質向上・充実感・達成感)
○児童・生徒像	<p><かしこく> ・基礎学力が身に付いた児童(様々な知識・技能、聞く・話す・読む・書く・計算する力) ・確かな学力が身に付いた児童(思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力・行動力・ICT活用力、学ぶ意欲など)</p> <p><やさしく> ・場に応じた言葉遣いのできる児童(あいさつをする・言葉遣いに気をつける) ・自分も人も大切にできる児童(自信をもつ・人と関わり合う・人を思いやる心・自然に親しむ)</p> <p><たくましく> ・よりよい生活習慣を身に付けた児童(心身の健康を保つ・安全な生活を送る・明るく生活する) ・自ら体を動かし体力の向上に努力する児童(進んで遊ぶ、体を動かす、運動する)</p>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・変化を感じ取り、時代を見通した対応ができる資質・能力を身につけた教師 ・チームで協働し、課題を乗り越えていく教職員集団 ・学習指導力、児童理解力、生活・進路指導力、外部との連携・折衝力、学校運営力・組織貢献力

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- 児童について** コロナ禍の中でも児童は前向きに学習や生活に取り組み、知・徳・体のそれぞれの側面で着実に力をつけてきている。特に ICT 機器の導入は、授業や児童の学校生活に大きな変化を与えたが、多くの児童が積極的に取り組み、今までにない勢いでスキルを高めている。学習面においては、習熟が不十分な児童への丁寧な個別指導の徹底、また豊かな心の育成には他者とかかわる学習や体験的な活動、たくましい体の育成では仲間と協力して運動に取り組む経験等をコロナ禍でも工夫して取り組んでいくことが課題である。
- 教師について** コロナ禍による変則的な学校運営の中、ICT機器の活用を研究し、オンライン学習サポート、リモート授業等により、児童の学びを止めないよう努力し、成果を上げてきた。また、学校行事も時代や状況に合った方法を考え、一昨年度より工夫して実施してきた。ここ数年の間は、教職員の異動が多いため、コミュニケーションを密にしながら、これまでの流れを継承することと新しい風を入れることをバランスよく行っていくことが必要である。
- 保護者・地域について** コロナ禍で学校や児童の様子を見ていただく機会が少なくなっているが、子どもたちの成長のために多くの理解と協力をいただいている。特に、児童の登校の見守りやコロナ禍に応じた読み語りの実施や行事への協力など、本当に感謝している。今年度は創立80周年の節目の年であり、昨年度以上にコミュニケーションをとりながら、保護者、地域の方々ともに思い出に残る一年にしていきたい。

【前年度の成果と課題】

重点的な取組事項－1 学力向上

- ・4月区調査通過率 **国語 88.8%、算数 90.5%**、は目標を大きく上回った。2月予備調査通過率**国語 82.4%、算数 77.3%**で算数についてはやや下回った。
- ・アクションプランに示した4項目は、**◎：十分達成が1項目、○：おおむね達成が3項目**であり、学力向上に関しては十分達成できたと考える。

重点的な取組事項－2 豊かな心

・児童の豊かな人間性の育成を目指した4項目の取組は、○：おおむね達成が4項目 であり、おおむね達成できたと考える。校内の人とのかかわりに加え、校外の人とのかかわりを増やし、多様なコミュニケーションの機会を作っていくことが課題である。

重点的な取組事項－3 たくましい体

・自らの健康と体力の向上を目指す児童の育成を目指した3項目の取組は、○：おおむね達成が3項目 であり、おおむね達成できたと考える。一昨年度の体力調査における課題種目については、昨年度向上が見られた。仲間と協力しながら運動を楽しむ経験を今後は増やしてことが課題である。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	◎	◎	◎	◎
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	たくましい体の育成	◎	○	○	○	○

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
<ul style="list-style-type: none"> 4月実施の足立区学力向上に関する総合調査結果の目標達成 2月の予備調査結果の目標達成 		<ul style="list-style-type: none"> 4月本調査 通過率 国語88%算数88% 2月予備調査 通過率 国語80%算数80% 		<ul style="list-style-type: none"> 4月本調査 通過率 国85.3% 算84.1% 2月予備調査 通過率 国83%、算80% 		4月本調査では、目標値にやや届かなかった。算数では3学年が区平均を下回っているため、習熟度別指導のじっくりコースの指導を確実にいき、つまずきのフォローも早期に行っていく。読書活動の充実も今後の課題である。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継続	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標(=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1継続	全校百マス計算大会	全学年算数	2か月に1回程度	【指導者体制】担任+専科 【取組のねらい・目的】基礎学力の定着朝パワーアップ時	・標準タイムの達成率	<ul style="list-style-type: none"> 年間6回実施 標準タイム8割超 未達成児童で記録が伸びた90% 	<ul style="list-style-type: none"> 標準タイム達成児 1年79% 2年88% 3年93% 4年59% 5年88% 6年96% 全校83.8% (80.8) 未達成時で伸びた児童 97.5% 	・全校で一斉に取り組むことで、年々意欲は高まっている。全体として8割以上が達成した。達成できなかった児童も確実に記録を伸ばしている。	◎

2 継続 (一部新規)	I C T 教 育の推進	全学年 全教科	通年	【取組のねらい・目的】 I C T機器を活用し、わかりやすい授業、プログラミング学習等を行う。 ①G・Workspaceで授業 ②プログラミング学習 ③A I ドリルの活用 (朝、授業、補習、宿題)	①②③ 実施回数	①ICT を使って学習できる90% ①G・Wの授業 2年以上週3回 ②プログラミング 低中：1単元以上 高：2単元以上 ③AIドリル週2回	①ICT を使って学習できる 96.5% (95.3) ①G・Wの授業 2年以上週 4.3回 ②プログラミング 低中： 2単元 実施 高： 2単元 実施 ③AIドリル週 4.6回	・中学年以上はタブレットを学習道具として活用できる。 ・A I ドリル強化月間では平均1000問程度、活用が定着している。 ・今後はデジタルノートの導入が課題。	◎
3 継続	読書活動の充実	①読語り(全) ②読書週間・(全) ③調べる学習・(4年～)	①4月から ②年2回設定 ③夏季休業中	【指導者体制】 ①図書ボランティア ②担任、保護者 【取組のねらい・目的】 ①②読書習慣を身に付ける。 ③興味関心のある本に触れる機会を作る。	①② ・児童アンケート ・読書冊数、ページ数 ③作品の出品	①②・読書に肯定的な回答90% ・目標冊数クリア 児童85% ③コンクールの出品100人	・読書が好きな児童 86.1% (85.5) ・目標冊数クリア 61.6% ・コンクールの出品 170人	・読書が好きな児童は少しずつ9割に近づいている。 ・目標冊数は3年生までは高いが4年以上が達しない。目標の見直しと読書時間の設定が課題。	△
4 継続 (一部新規)	授業改善	①思考ツールの活用(全) ②足立スタンダードの徹底 ③教科担任制導入	①②③ 通年	【指導者体制】 全教員 【取り組みのねらい・目的】 ①思考を発散し、まとめるスキルを身につけ、話し合い活動を充実させる。 ②めあて→振り返り・まとめの質の向上 ③高学年の理科・社会・外国語・体育等で実施	①授業での活用回数 ②③児童アンケート	①思考ツールを活用した授業 低：月1回 中高：月2回 ②めあて・まとめがわかった90% ③授業がわかった90%	①思考ツールを活用した授業 低：月1回 中高：月1回 ②めあて・まとめ 93.8% (92) ③授業がわかった 国 95.5% 算 94.7% 社 90% 理 95.7% 全体 94%	・思考ツールは教員がどの場面で使うべきか捉えられていない傾向がある。 ・教科担任制は児童も教員も前向きに取組み、一定の成果は上がっている。年度ごとに担当教科を変えるかが今後の検討課題。	○

重点的な取組事項－2	豊かな心の育成
-------------------	---------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童の豊かな人間性を育成	目標実現に向けた取組の実施結果が、4項目とも「おおむね達成」以上	4項目とも「おおむね達成」以上であった。	80周年記念行事をはじめ、昨年度以上に様々な活動に取り組み、児童の笑顔が多く、の場所でみることができた。	○

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
あいさつの励行	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ」について肯定的評価 95% ・あいさつ名人 各学級 3 割 全校 120 人 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ強化週間の実施 ・児童によるあいさつ運動 ・場や状況に応じたあいさつ (アイコンタクト、会釈等) ・あいさつ名人の取組、表彰 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「あいさつ肯定的な評価」 88.8% (90.3) ・「あいさつ名人」 3 割以上 学級 (12) 全校で 人 (189) 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内であいさつや会釈ができる児童は多い。一部の苦手な児童も意識できる工夫 (場面ごとのチェックリストなど) を検討していく。 ・あいさつ名人 	○
人や環境とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「友達を大切にできた」肯定的評価 95% ・SDGs の理解や関心について 80% 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止に配慮した交流 ・人権教育、道徳教育の充実 ・お世話になった人への手紙 ・SDGs に関わる単元を総合等で設定し 1 単元以上実施。 ・ユニセフ募金、エコキャップ、アルミ缶、地域清掃、リサイクル活動等 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「友達を大切にできた児童」 96.1% (95.4) ・SDGS に関する授業は全学級で実施。 ・SDGS への理解関心 91.6% 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも様々な活動、行事を実施し、児童が多様な形で関わることができ、笑顔が増え、活発になった。 ・ユニセフやエコキャップへの参加、地道な地域清掃の実施等、SDGS への意識を高め、実践につなぎ始めている。 	◎
安全で美しい学校	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校や学級のものを大切に使う」90%以上 ・「身の回りにゴミや落し物がない」80%以上 ・廊下歩き名人、各学級 3 割以上、全校 120 人 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策の徹底 ・各学級での環境整備運動 ・廊下歩き強化週間の実施 ・毎月の安全点検 ・栗原スタンダードの徹底 ・多様な想定避難訓練 ・東京マイタイムライン作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ものを大切に」 95.8% ・「ゴミや落し物」 69.8% ・廊下歩き名人 3 割の学級 6 学級 (12) 全校で 134 人 (147) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のを大切に使う意識はあるが、自分のものを大切にしない、落ちていものに意識が行かない児童が多い。繰り返し声かけをし、行動できたら賞賛していく。 	○
いじめ防止 不登校への早期対応	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ解消率 100% ・不登校 0% ・「学校は楽しい」肯定的評価 95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・Q U 調査の 2 回実施、分析 ・毎週いじめ防止全体会実施 ・年 2 回教育相談全体会実施 ・週 2 回子ども相談日設定 ・人権標語、いじめ撲滅標語 ・ふわふわ言葉の推奨 ・在籍学級と特支教室の連携 ・不登校児童への ICT 機器を活用したサポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・1 月末いじめ認知件数 111 件 (51) であり、現在重大事案に発展したものは無い。解消済 67 件、3 か月継続観察中 44 件である。 ・不登校率 1.4% (0.6) ・児童アンケート「学校は楽しい」 93.5% (88.6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ認知件数は昨年度より増加し「いやなことを言われた」が多い。意図した悪口から相手の受け取り方の違いまで様々ある。いじめ事案については全職員で共有し即時対応している。今後も学校全体で未然防止、早期解決に努める。 ・様々な活動が復活し、学校が楽しいと感じる児童が増加した。引き続き児童がやる気になる活動を計画していく。 	○

重点的な取組事項－3		たくましい体の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自らの健康と体力の向上を目指す児童の育成		目標実現に向けた取り組みの実施結果が、3項目とも「おおむね達成」以上	3項目とも「おおむね達成」以上であった。	コロナ禍であっても元気に遊んだり、運動したりする児童が増えてきている。いろいろな運動を経験し、運動する楽しさをより味わわせていく。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体育授業・体育的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「好きな運動3つ以上」 93% 「好きな運動がない」 0% 「体育の授業が楽しい」 85% 	<ul style="list-style-type: none"> 体育科授業での環境設定の工夫（場、用具、ルール等） 栗原タイムの計画的実施 オリパラ教育の継続 コロナ禍に対応した体育授業、体育的行事の工夫 運動環境の工夫（外遊びの確保、上履きの校庭使用等） 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「好きな運動が3つ以上」 87.9% (90) 「好きな運動が1つもない」 0% (0.3) 「体育の授業が楽しい」 90% 	<ul style="list-style-type: none"> 3つ以上好きな運動がある児童は若干減ったが、1つもない児童は0名だった。多様な運動を紹介し、自分の好きな運動を見つけ、運動や遊びへの関心を広げていく。 	○
体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 長なわチャレンジ区目標記録 平均75%以上達成 握力、ソフトボール投げのTスコアで都平均を上回る。 	<ul style="list-style-type: none"> 長なわ記録会・短なわ週間 持久走週間、記録会 「パワーアップカード」による家庭との連携 グーパー運動の励行 投げ方教室による投力向上 	<ul style="list-style-type: none"> 長なわチャレンジ目標記録 2月初現在、3月記録会予定 75%以上達成 5学級 (8) 平均達成率 74.9% (81.1) 握力 6月 98%→1月 107.6% ソフトボール投げ 6月 95.5%→1月 120.9% 	<ul style="list-style-type: none"> 2月現在 75%を越す学級は5学級。3月の記録会で目標達成を目指す。 課題種目の握力、ソフトボール投げはともに都平均を上回った。引き続き向上を図っていく。 	○
食育・保健指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「自分の健康への関心」 95% 給食残菜率 0.5% ベジファースト実施率 95% 	<ul style="list-style-type: none"> 健診時の養護教諭保健指導、給食時の栄養士食育指導 セレクト給食、リクエスト給食、行事給食等の実施 世界の貧困や飢餓状況等を学ぶ 食育授業、最初に食べるとよいメニューの紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの健康を考え、健康管理に努める児童 95.9% (90) 給食の残菜率 0.8% (0.7) ベジファーストの実施率 92.5% (91.7) 	<ul style="list-style-type: none"> 健康への意識は95.9%と昨年度より向上。 残菜率は昨年度とほぼ一緒。区平均は大きく下回る。 ベジファースト率は2年連続で増加。野菜嫌いの児童やこだわりがある児童が若干名いる。 	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプランについて

- 【課題】・国語も算数も通過率でみると昨年度より、若干減少している。算数については全国平均を上回っているものの、3学年が区平均を下回っている。未通過の児童には個別指導を実施しているが、なかなか定着しない児童が年々増えてきていることを感じる。特にコロナ禍でリモート学習を選んだ児童の中で、十分に習熟がなされていないまま学習が進み、つまずきが手当しきれない児童が見受けられる。1月末の予備調査は目標を上回ったが、傾向は大きく変わらない。残りの期間、個別のつまずきを丁寧に手当てしていく。
- ・国語、算数ともに、文章やテキストが長く多い問題に対して、どの学年も正答率が低いのはここ数年の傾向である。特にここ2年間はタブレットの導入に伴い、文章に親しむ時間が全体としても減少しており、一部の児童はかなりタブレットやゲーム等に偏った状況であるのは否めない。読解力と読書量の相関関係が強くみられるため、文章に慣れ親しむ機会を充実していくことが必要である。
- 【対策】・読書に取り組む時間を確保するため、時程を工夫し読書タイムを新たに設定していく。年3回の読書旬間の間は比較的読書への関心は高まるが、1年を通して継続できない児童が多い。年間通してコンスタントに確保することで習慣化を図っていく。
- ・授業では、国語は引き続き、読み取る際に重要な箇所や必要な箇所にサイドラインを引かせるとともに、気付いたことを書き込んでいくなど、大事な部分や考えが可視化し、深く読み取れるようにしていく。算数では、全学年においても少人数による習熟度別指導、特にじっくりコースの指導について、重点事項を明確にし、基礎学力の定着を図っていく。またMIM指導を一層充実させ、2年生でも継続して指導し、読みのつまずきを早期に解消していく。
 - ・授業以外では、放課後学習や宿題、家庭学習でAIドリルを効果的に出題していく。また、つまずきの多い問題については授業の初めに解説するなど、早めの手当てを行っていく。パワーアップタイムでは、100マス計算、音読、視写、計算や漢字のフラッシュカードなど、学級の実態に応じた取組みを選択し実施していく。また、国語の読解問題や算数の文章題などもコンスタントに取り入れ、読解力を高めていく。

イ 豊かな人間性の育成について

- ・コロナ禍の制限の中でも、できるだけ児童にとって有意義な学習活動や学校行事を実施してきた。特に80周年記念行事に向けた様々な取組みは全校児童で協働して取り組む久しぶりの大きな行事として、児童の心に印象深く残った。また、周年イベントととして都教委の「笑顔プロジェクト」を大いに活用し「陸上メダリストの招へい」「全校での演劇鑑賞」「WBCワールドベースボールクラシックの観戦」など、コロナ禍以前の取組みよりも充実した取組みを実施することができ、児童のたくさん笑顔を見ることができた。
- ・SDGsを意識した取組みとして、学校や西新井周辺の清掃活動「くりっこ清掃」を25回程度実施し、環境に対する関心や啓発、地域を愛する心などを育てることができた。また、エコキャップやユニセフ募金等、貧困に苦しむ世界の子どもたちへの支援も積極的に行うことができた。

ウ たくましい体の育成

- ・今年度の体力調査における課題種目として「握力」「ソフトボール投げ」を取り上げ取り組んできた、6月調査に比べ1月調査では伸びが見られたが、二極化傾向が著しい。握力計で計測しても数値が表れないほど低い児童がいる。
- ・休み時間に周年の記念品としていただいた、一輪車や竹馬、バスケットゴールを使って遊ぶ児童がたくさんいた。また、小雨が降っていても遊びたがる児童も多く、これまでのコロナ禍の雰囲気よりも積極的に体を動かそうとする児童が増えていると感じる。一方で教室に残って、タブレットでタイピングや作業をする児童もおり、自分の好きな運動を見つけ、体を動かす楽しさを味わう経験をさせたい。
- ・児童が運動遊びに目を向けるきっかけとして、運動カードの種類を増やし、目標を達成した児童を表彰するなど、強制ではなく自分から運動に取り組む環境づくりを行っていく。
- ・食育については、ベジファーストの意識は年々高まっている。野菜嫌いの児童や自分の好きなものから食べたいという児童は、わかっているにもかかわらず実行することができない。児童の気持ちを大切にしながら、啓発を図っていく。また、SDGsの観点から、残菜をできるだけ出さな

いようにしようとする児童が増えている。積極的にお代わりしようとする児童がたくさんいることは、意識の高まりと給食がおいしいことが大きな要因と思われる。一方、小食な児童、苦手な食べ物が多い児童も少なからずおり、必要な摂取量と食べることができる量のバランスを見ながら指導していく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

保護者、地域の皆様には、コロナ禍においても運動会、音楽会、学校公開、土曜授業等、公開の機会にたくさん来校いただき、児童を励ましていただいたことに感謝しております。コロナ禍でオンラインでの授業公開や保護者会など、今までとは違う形式での実施も根付いてきました。今後こういった形式も生かしながら、保護者や地域の皆様に情報発信していきたいと思えます。

80周年の記念行事を通して、行事活動は児童にとって大きな意義があることを改めて実感した1年でした。コロナ禍が収まれば、従来の取組みにそのまま戻すことを期待される方も多いと思えますが、学校教育の内容はICT教育やSDGsなど新たな課題も増え、飽和状態に達しているのが現状です。行事を行うにはかなりの準備時間を要し、本来の授業を圧迫することも少なくありません。このコロナ禍はそういった意味で行事のあり方を見直すよい機会となっています。児童にとって有意義な行事としつつ、できるだけ他の活動を圧迫しない取り組み方法を検討しています。保護者、地域の皆様には、新しい形での学校行事にご理解をいただき、今まで以上に児童や教職員にエールを送っていただき、引き続きお力添えをいただければ幸いです。

(3) その他（学校教育活動全般について）

今年度も、一昨年度から引き続きコロナ禍での教育活動であったが過去2年とは違い、様々な活動に取り組むことができた。国の方針も5月以降変更される予定であり、出口が少しずつ見えてきたことは喜ばしいことである。コロナ禍で経験したプラス、マイナス様々な経験を今後有意義に活用していきたい。ICT機器についてもとにかく使う段階から有効活用する段階に移っていく。今年度はAIドリル推進校の指定を受け、1年生から先行的に取り組み、よさや課題を探ってきた。まだまだ、十分とは言えないが個別最適な教材として活用できるよう、来年度も積極的に活用し、児童のつまずきの解消に役立てたい。また、高学年の一部の教科では、紙ノートではなくデジタルノートで児童が授業の記録をとっている。児童自身の記録として、また教師の学習状況の把握、評価への活用等も今後検討し、ICT機器が学習道具として浸透していくよう、学校全体で取り組んでいく考えである。